

(学校用)

様式 A-1

平成 26 年 7 月 24 日

## サイエンス・ダイアログ 実施報告書

1. 学校名・担当者氏名: 甲府南高等学校 三井 美和
2. 講師氏名: Dr. Chamidu Atupelage (東京工業大学像情報工学研究所)
3. 同行者氏名: 横山 諒 (東京工業大学 大学院総合理工学研究科 修士課程2年)
4. 実施日時: 平成 26 年 7 月 18 日 (金) 13 : 55 ~ 15 : 35
5. 参加生徒: 1 年生 40 人、 2 年生 1 人、 3 年生 1 人 (合計 40 人)  
備考: (例:理数科の生徒) 理数科 1年生
6. 講演題目: (英文) How to transfer the brain knowledge into a computer system  
(和文) どのようにして脳内の知識をコンピュータシステムに転写させるか
7. 講演概要:

まず、講師の母国スリランカの紹介と、講師が研究者になった経緯、研究者とエンジニアの違い、研究における英語の重要性について話をいただいた。

続いて、講師の専門分野である癌のコンピュータ支援診断について、癌の組織をどのように検査するかの説明の後、2D 診断、3D 診断の動画を見せてくださった。病理医が電子顕微鏡をのぞいて癌かどうかを判定するが、画像から得られる情報を数値化することにより、癌診断の信頼性・正確性が向上し、初期の癌の発見も可能になることを学んだ。
8. 使用言語: 英語 / 日本語
9. 講演形式:
  - (1) 講演時間 80 分 質疑応答時間 20 分
  - (2) 講演方法 (例: プロジェクター使用による講演、実験・実習の有無など)  
プロジェクター使用による講演、動画の提示
  - (3) 通訳 (例: 同行者によるサポート、外国人研究者本人による日本語説明)  
フェローは日本語が堪能でほとんど問題はなかった。  
同行者が時折英語の専門用語を日本語に直し、質疑応答の場面では、通訳をしてくれた。
  - (4) 事前学習時使用教材(事前学習を行った場合のみ)  
生徒用ワークシート  
(フェローから事前にいただいた研究の概要、講義のアウトライン、キーワード等をまとめたもの)
10. 学校からの支給経費(該当がある場合):  交通費(タクシー代)  宿泊費  謝金
11. その他特筆すべき事項: 特になし